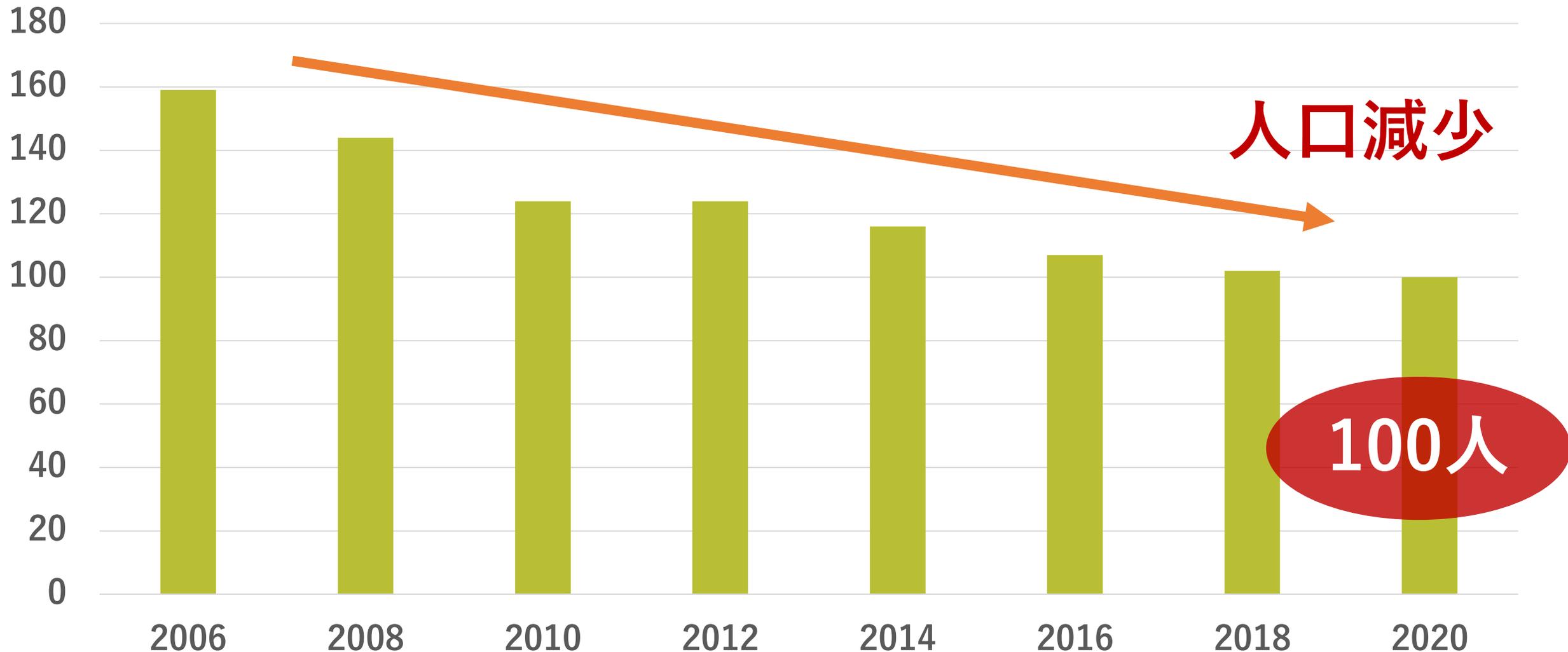


An aerial photograph of a large concrete dam structure, partially obscured by a semi-transparent grey overlay. The dam is situated in a lush, green valley with dense trees and a winding road in the foreground. The overall scene is bright and natural.

再生可能エネルギーから 広がる地域内循環

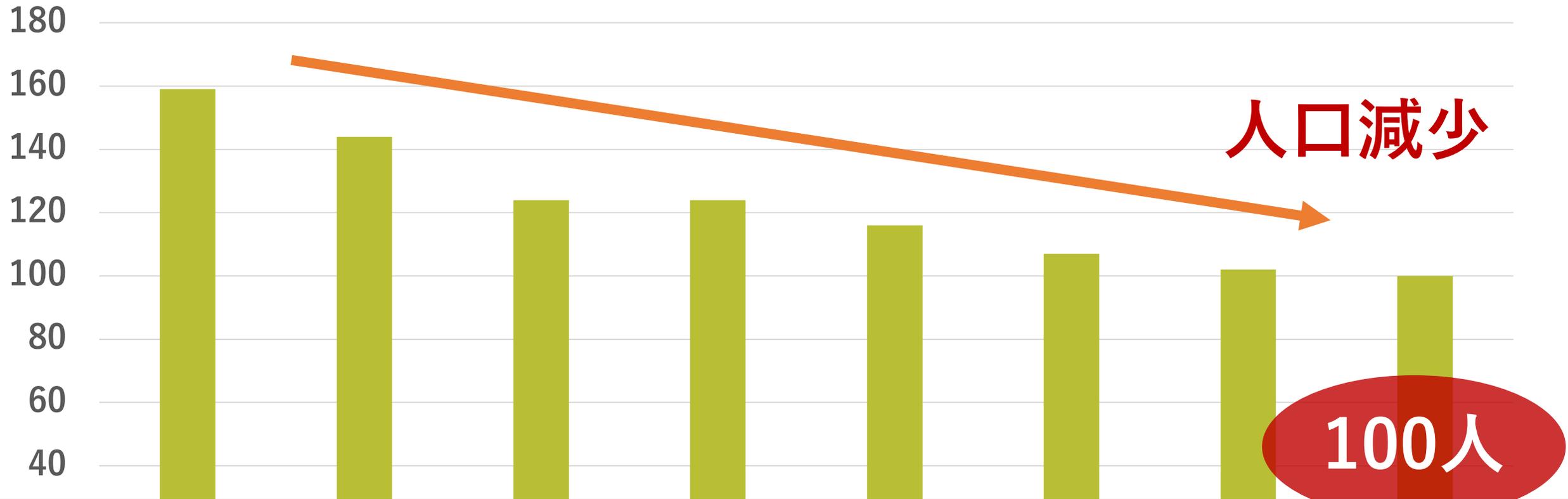
龍谷大学政策学部深尾ゼミナール

滋賀県東近江市政所町の人口推移



東近江市HP参照

滋賀県東近江市政所町の人口推移



地場産業が途絶えてしてしまう

A wide-angle photograph of a tea plantation. The foreground is filled with rows of vibrant green tea bushes. In the background, a valley opens up towards a range of misty, forested mountains under a blue sky with scattered white clouds. On the right side, a portion of a modern building with a grey facade and a dark roof is visible.

政所茶

無農薬

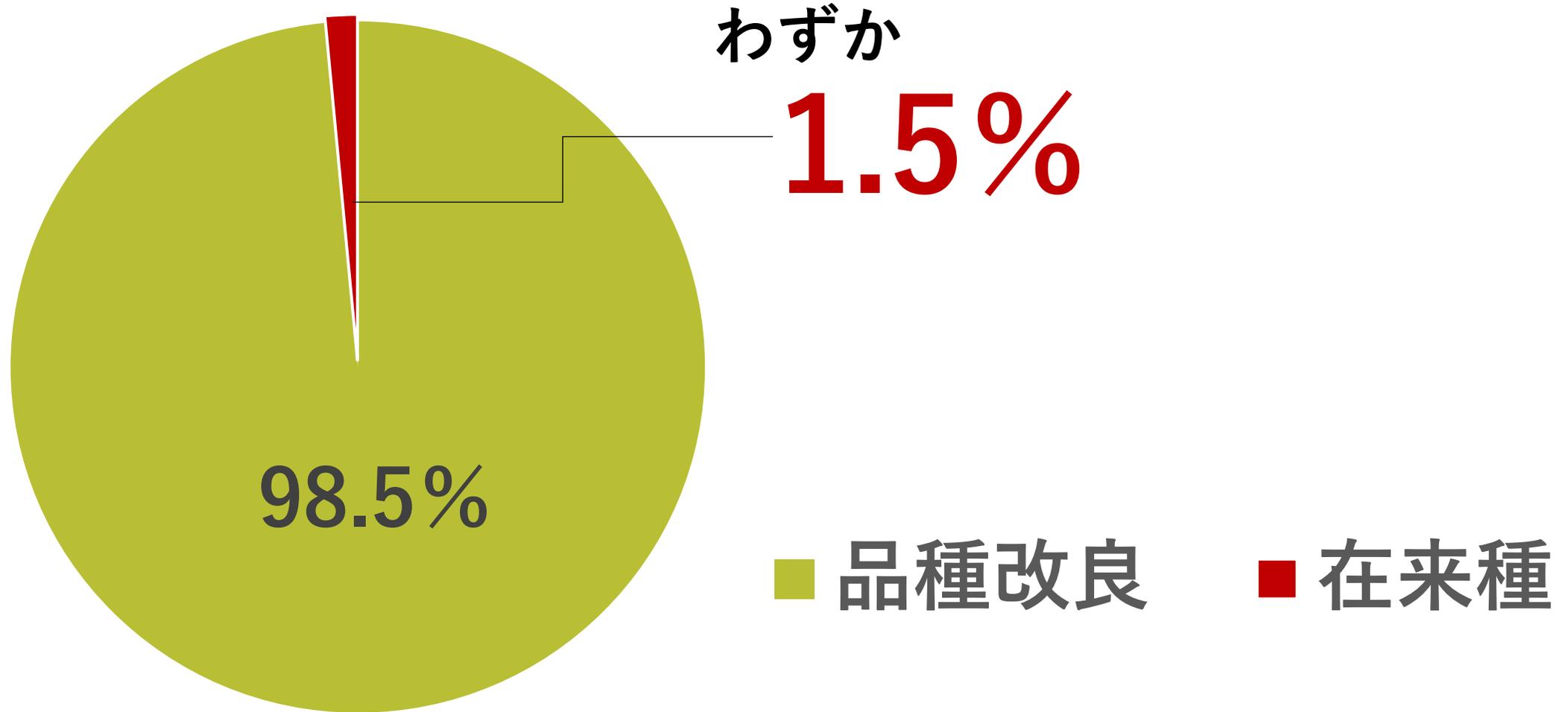
手摘み

地域内生産

在来種

政所茶

日本のお茶の割合



エシカル消費

地域の活性化や雇用なども含む人や社会・
環境に配慮した消費行動



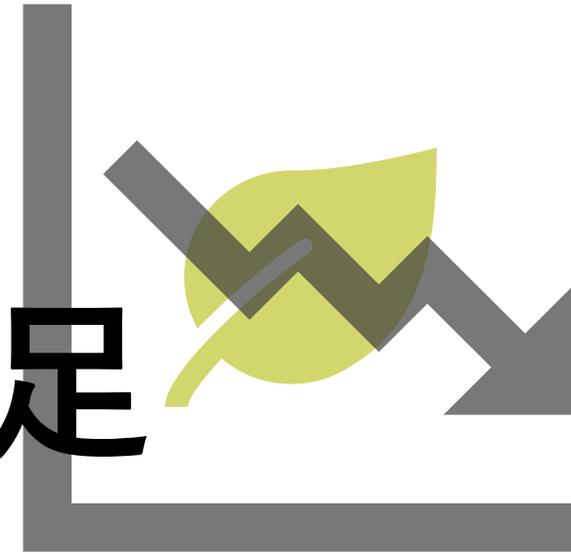
社会課題
環境課題



地場産業の維持

種の保存

高齢化
担い手不足



政所茶は年々衰退

現在

- ・老朽化により修繕と故障を繰り返す
 - ・JAが茶工場の運営費用を負担
- 来年度以降
手を引くことが決定

来年度

- ・茶工場の運営費用が生産者負担に

↓
担い手不足
運営主体等の課題

↓
茶工場が
つぶれてしまう

現在

・老朽化により修繕と故障を繰り返す

・JAが茶工場
運営費用を負担

→来年度以降
手を引くことが決定

来年度

・茶工場の運営費用が
生産者負担に

運営主体等の課題

茶工場が
つぶれてしまう

政所茶が存続の危機



自分たちの工場が必要

茶工場が維持できなければ

政所茶が無くなってしまおう

採算の取れる新たな茶工場が必要



間伐材



木質バイオマスボイラー

政所茶



木質バイオマスボイラー

政所茶



×



木質バイオマスボイラー

政所茶



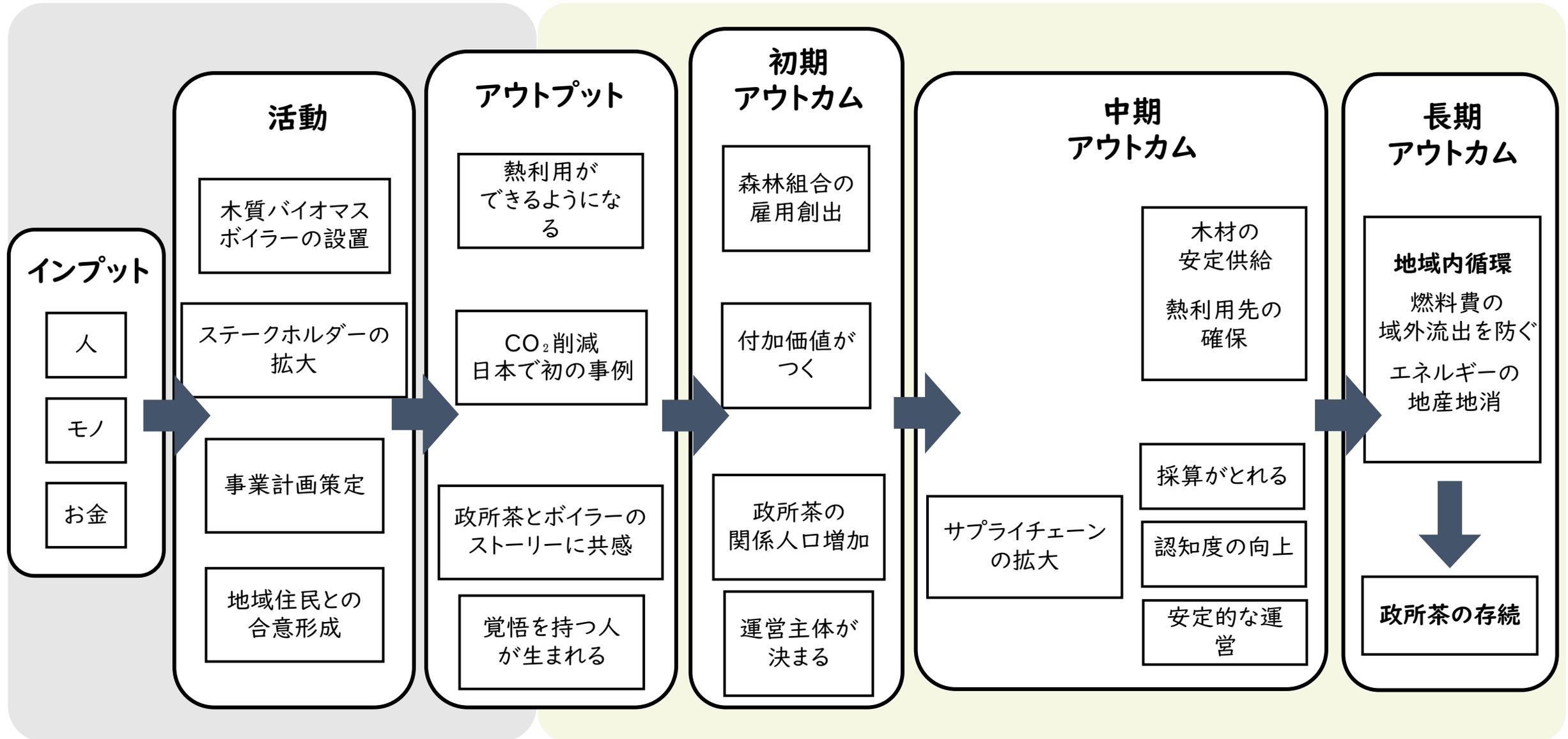
-ヒアリング調査-

一般社団法人 徳島地域エネルギー

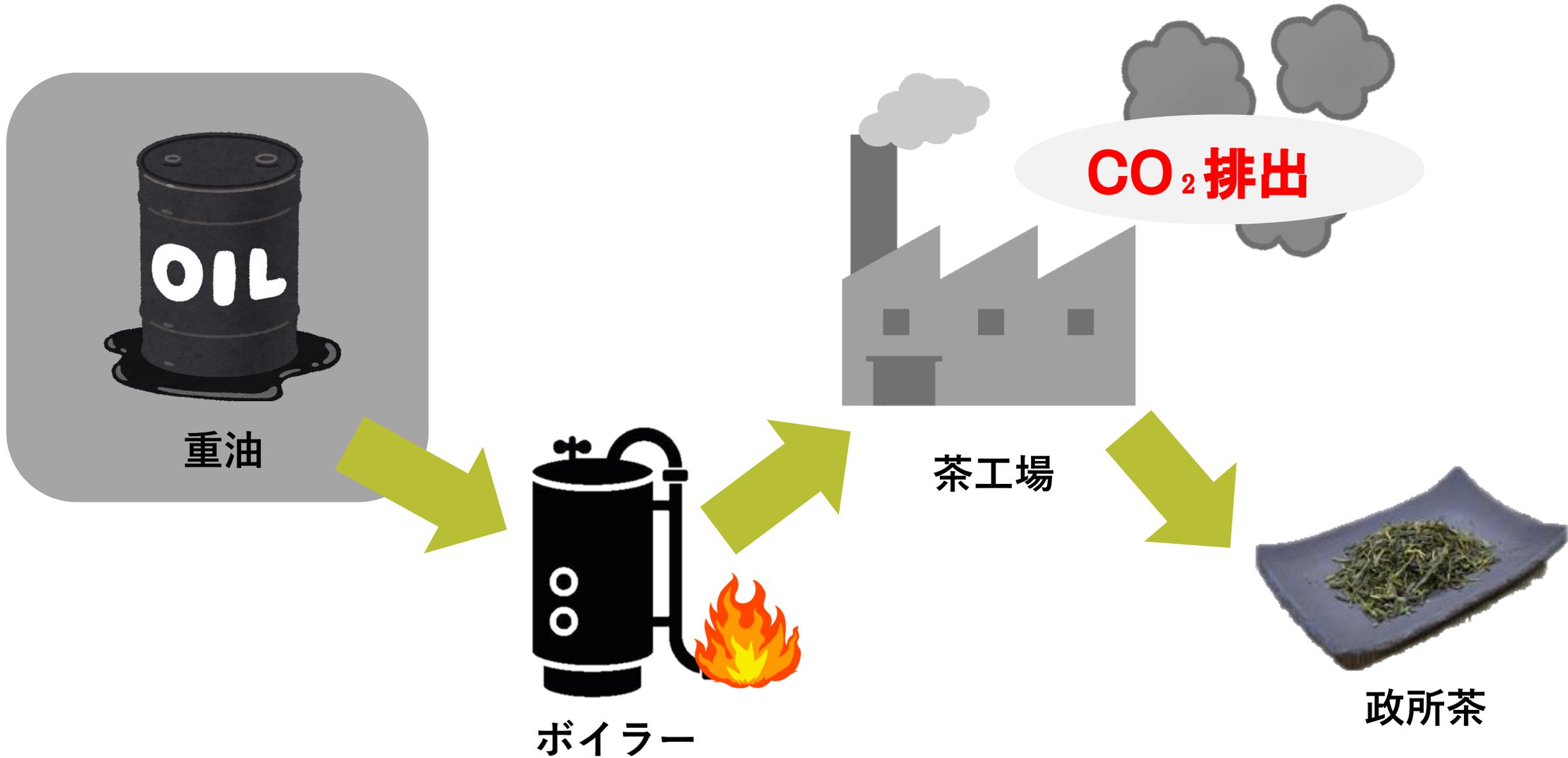


どのような
付加価値がもたらされるのか

木質バイオマスボイラー導入のロジックモデル



現在



木質バイオマスボイラーに変えると



$\text{CO}_2 \rightarrow$ 酸素



木質バイオマスボイラーに変えると



実質CO₂の
排出量ゼロ



CO₂ → 酸素

日本初の先進事例

ボイラー

木質バイオマスボイラーに変えると



木材



茶工場



実質CO₂の
排出量ゼロ



脱炭素型モデルとしての付加価値



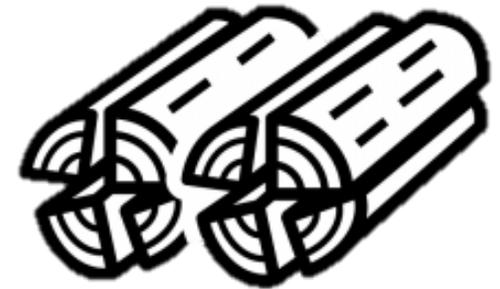
需要**増**



雇用創出



増加



安定的に
供給可能



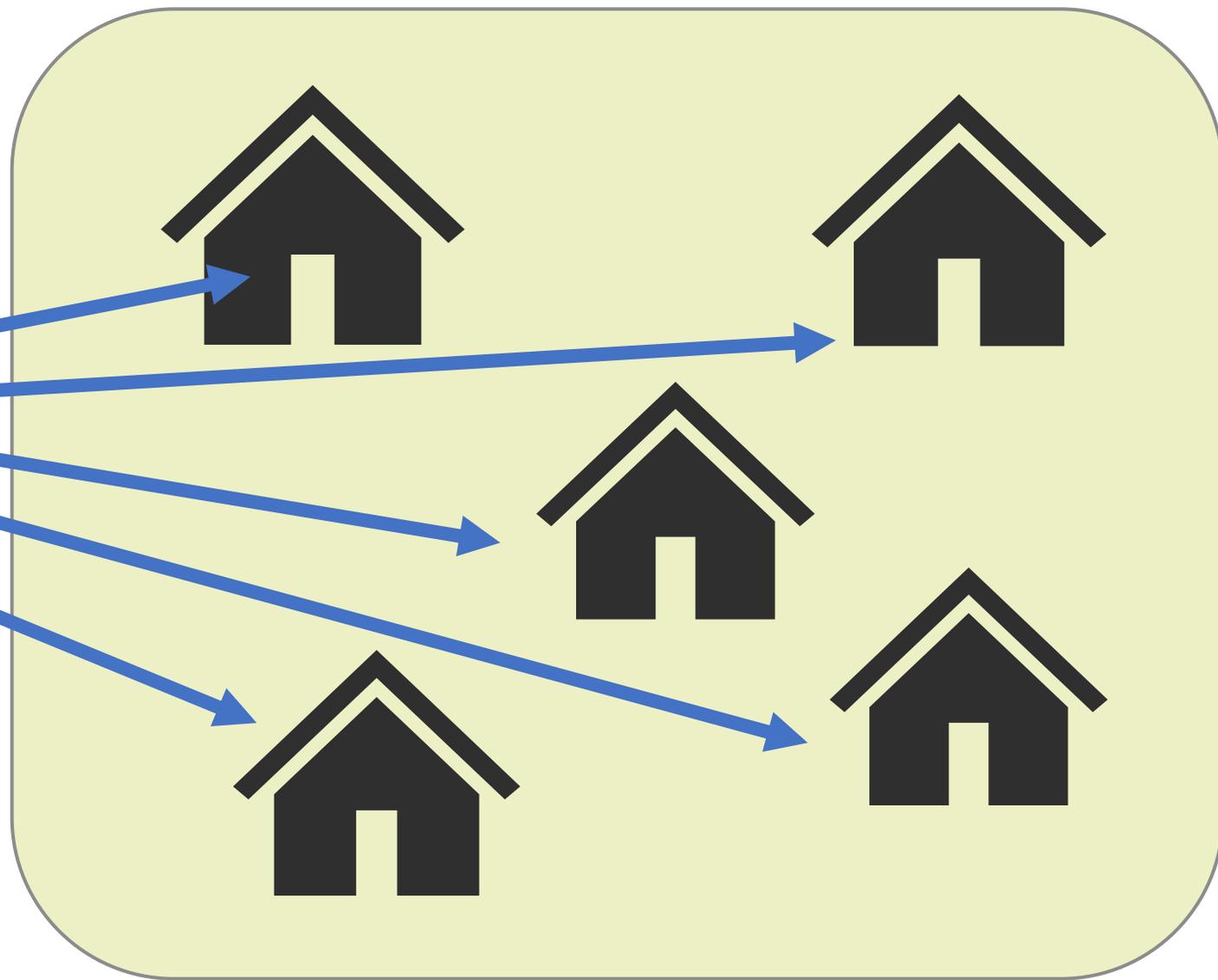
増加



熱供給が可能

地域外

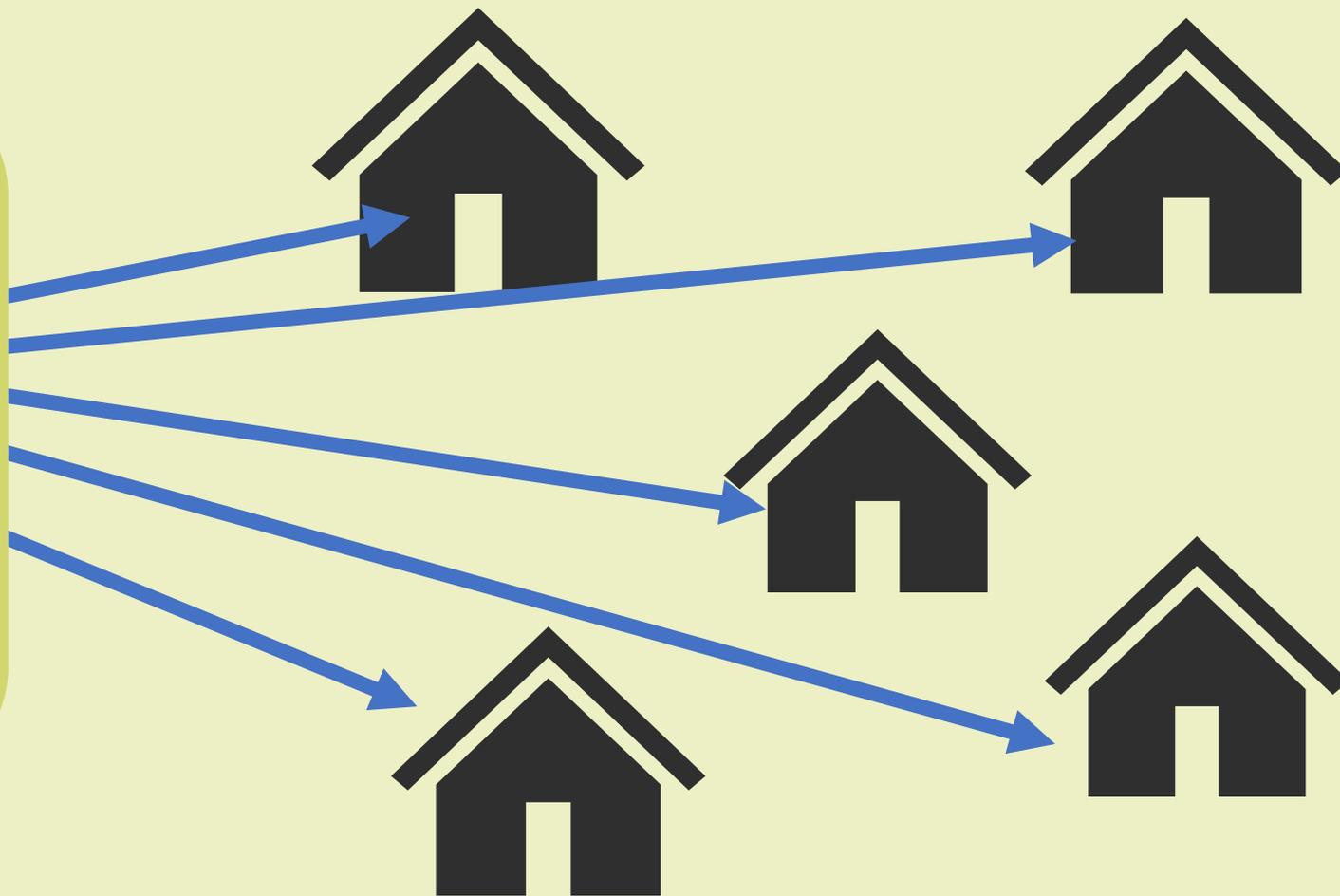
地域内



地域内



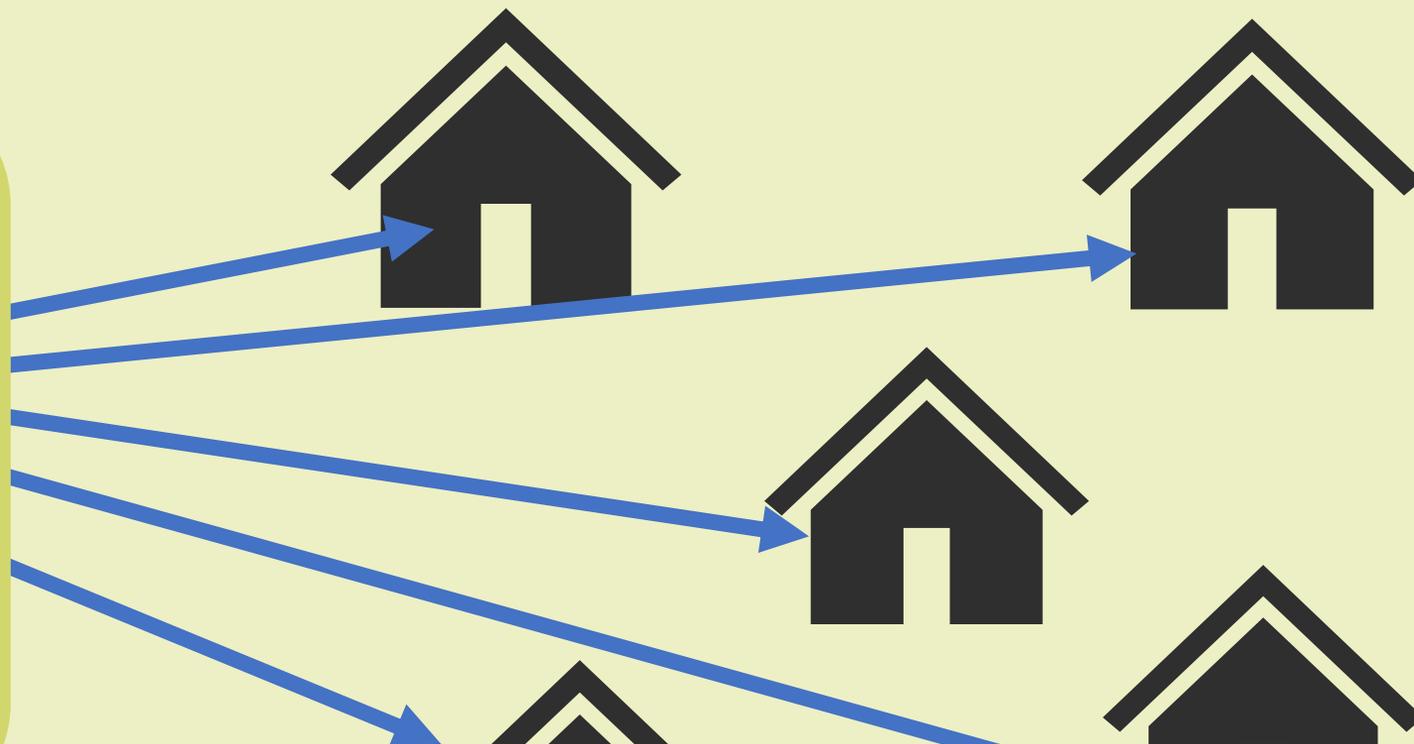
木材



地域内



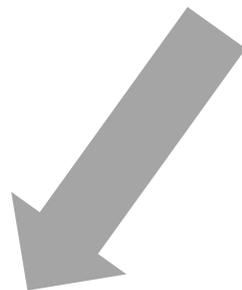
木材



エネルギーの地産地消

5,412L

製茶時期の重油使用料



域外流出額

36万9千円

* 重油1L当たり68.3円換算

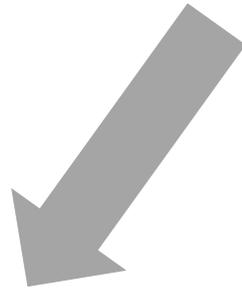
CO₂排出量

10,615kg

木質バイオマスボイラーに変えると

18,000kg

製茶時期の間伐材使用料



地域内の経済効果

27万円

* 間伐材1kgL当たり15円換算

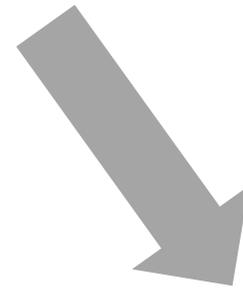
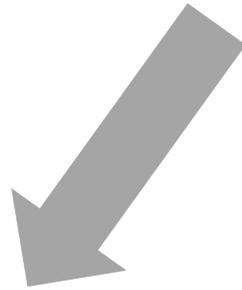
CO₂排出量

実質 0

木質バイオマスボイラーに変えると

18,000kg

製茶時期の間伐材使用料



地域内の経済効果

CO₂排出量

経済効果と環境効果が存続につながる

茶工場を存続していく際の課題

設備利用率

製茶時期
4ヵ月間

稼働していない
時期のほうが多い



1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

設備利用率を高めなければ
政所茶の存続が厳しい

設備利用率



1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

設備利用率

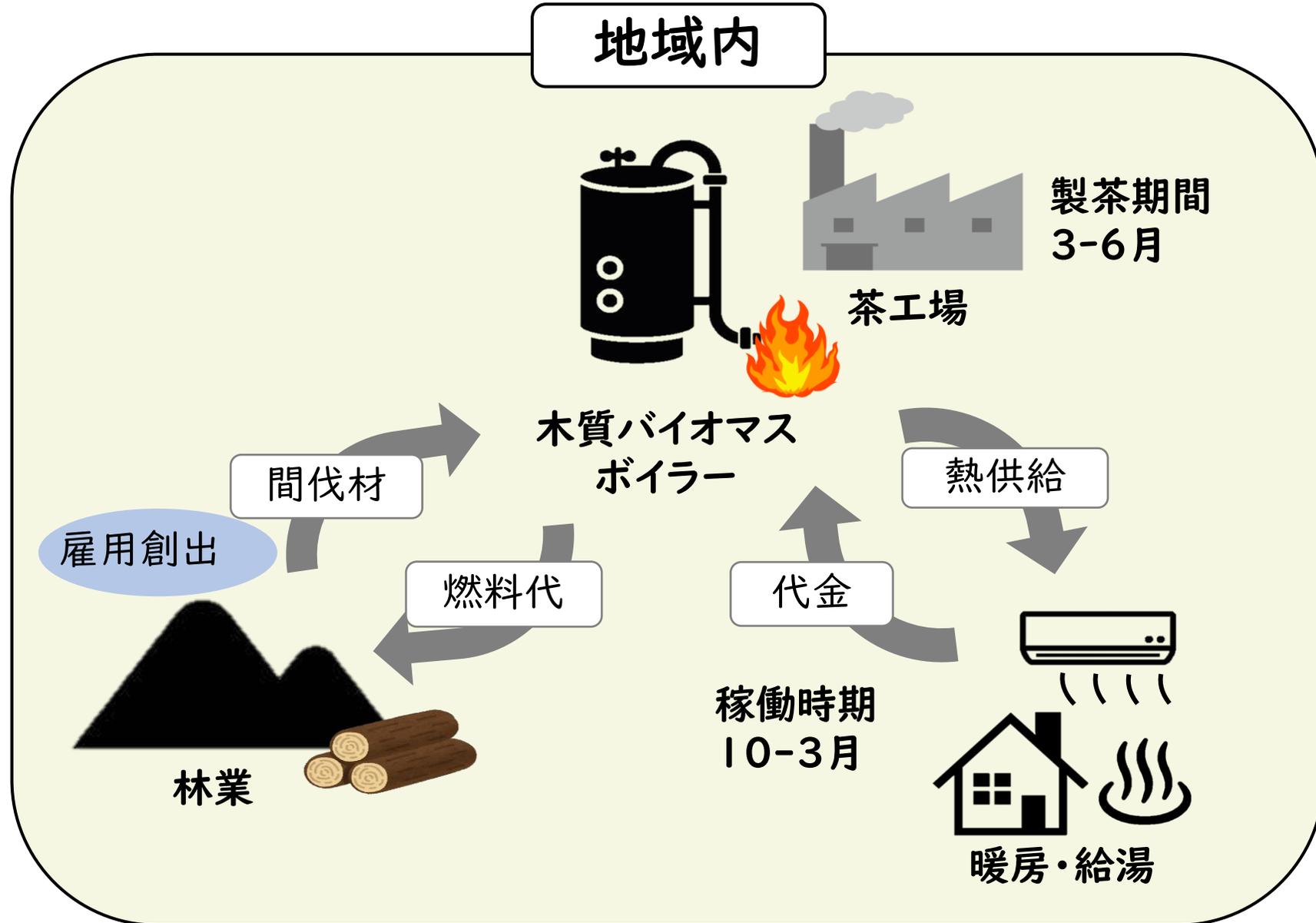


1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

採算性を高めることが重要

木質バイオマスボイラー
×
住戸

暖房・給湯における地域内循環モデル



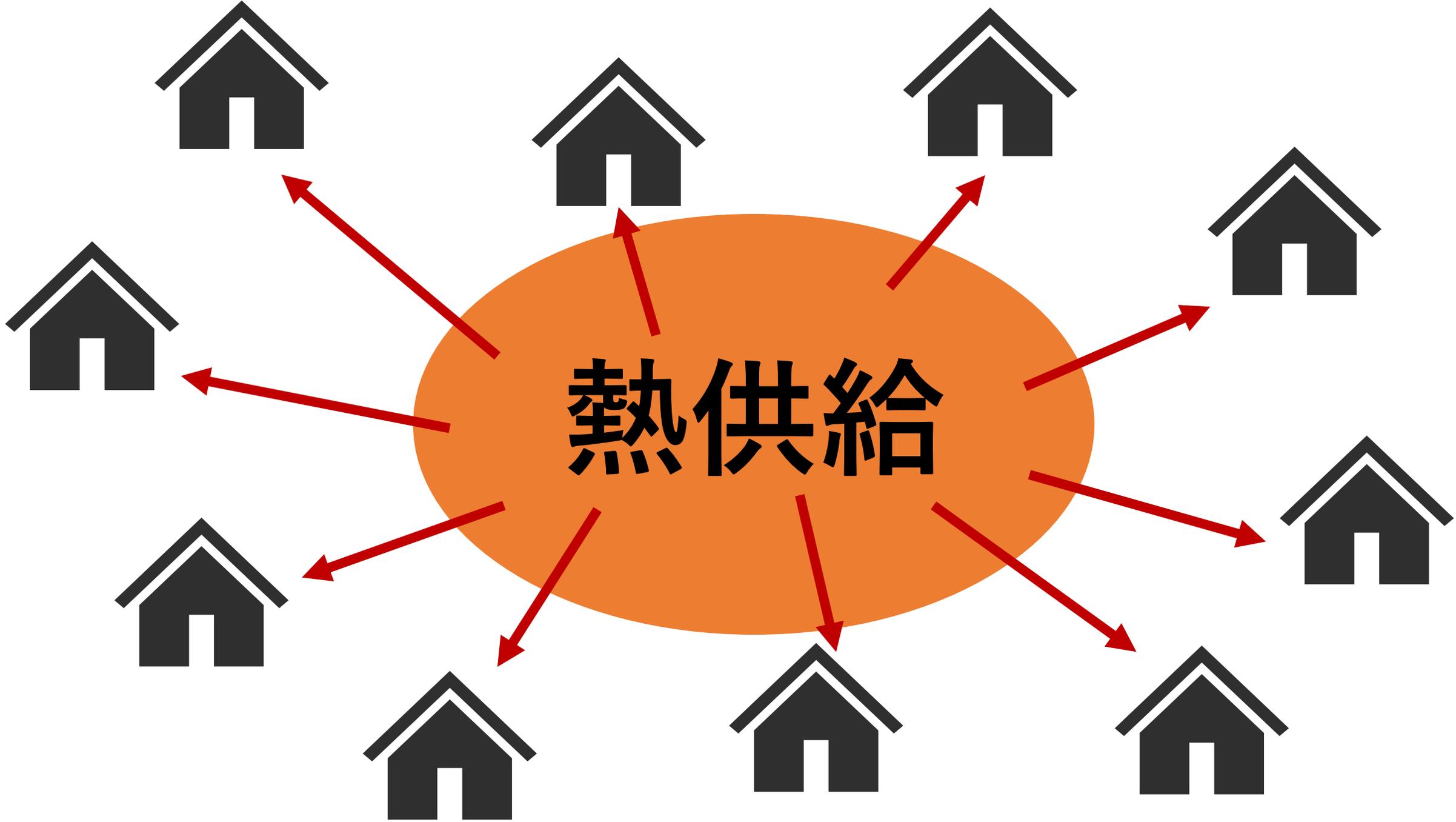
設備利用率

10月~3月に
暖房・給湯需要が高まる

製茶時期

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

熱供給



10月～3月



灯油

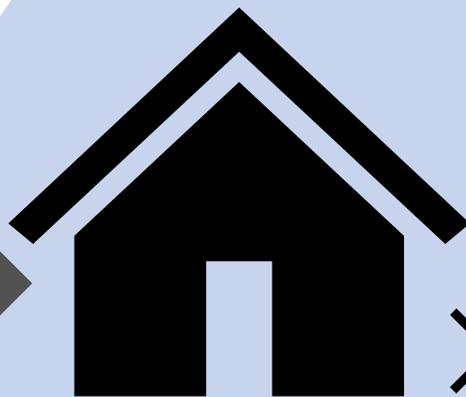


1軒当たりの暖房・給湯代
約36,000円

10月～3月



灯油



× 10

10軒当たりの暖房・給湯代

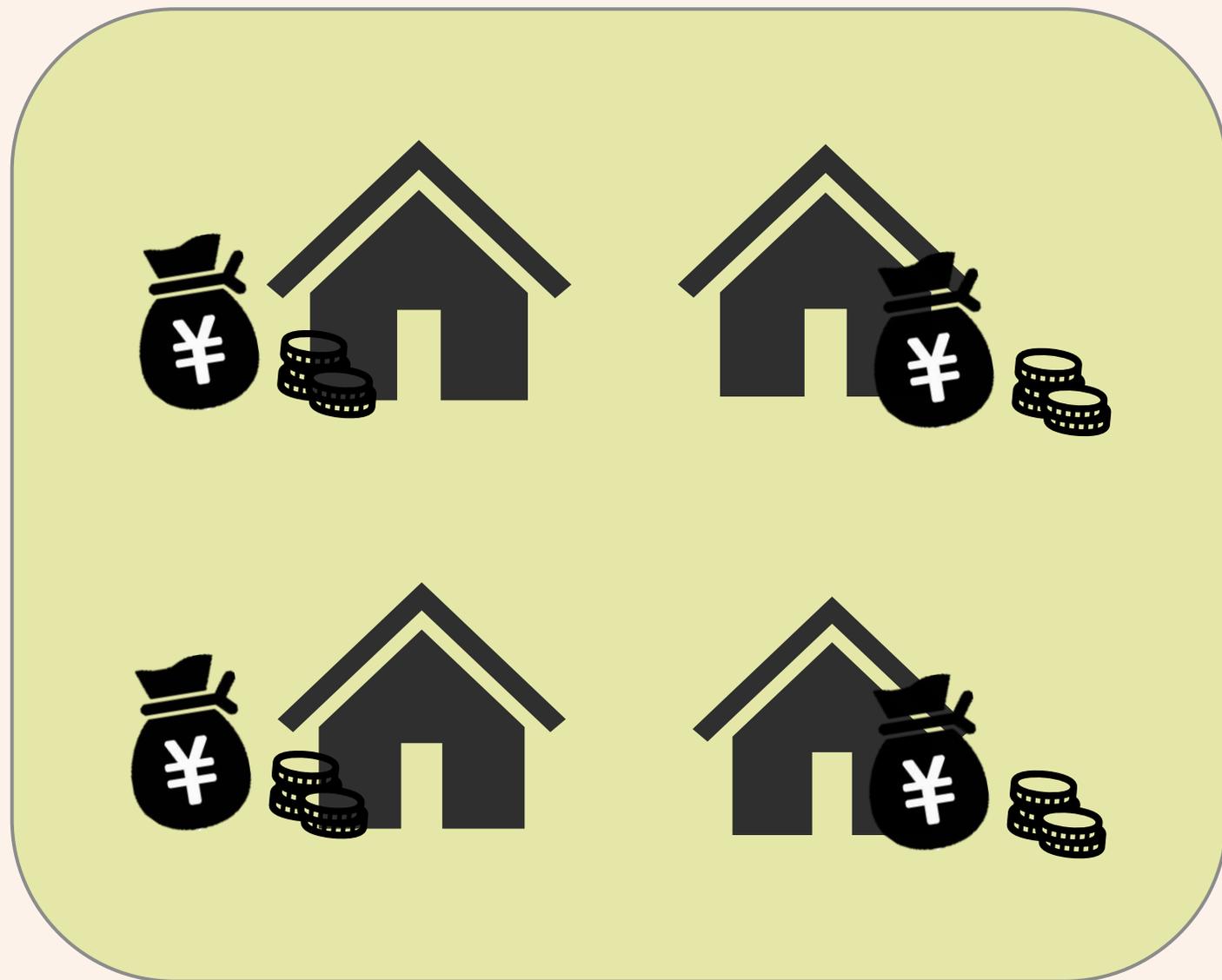
約360,000円

地域外



灯油代

地域内



地域外

地域内

地域外へ36万円の流出

灯油代





木質バイオマスボイラー

熱供給



1軒当たり

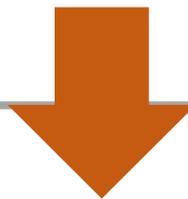
約2,600円



重油

🏠 1軒当たりの暖房・給湯代

約36,000円



木材

約2,600円

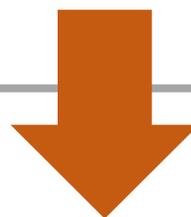
33,400円の削減



重油

10軒当たりのCO₂排出量

1,650kg



木材

実質 0

木質バイオマスボイラー

×

陸上養殖

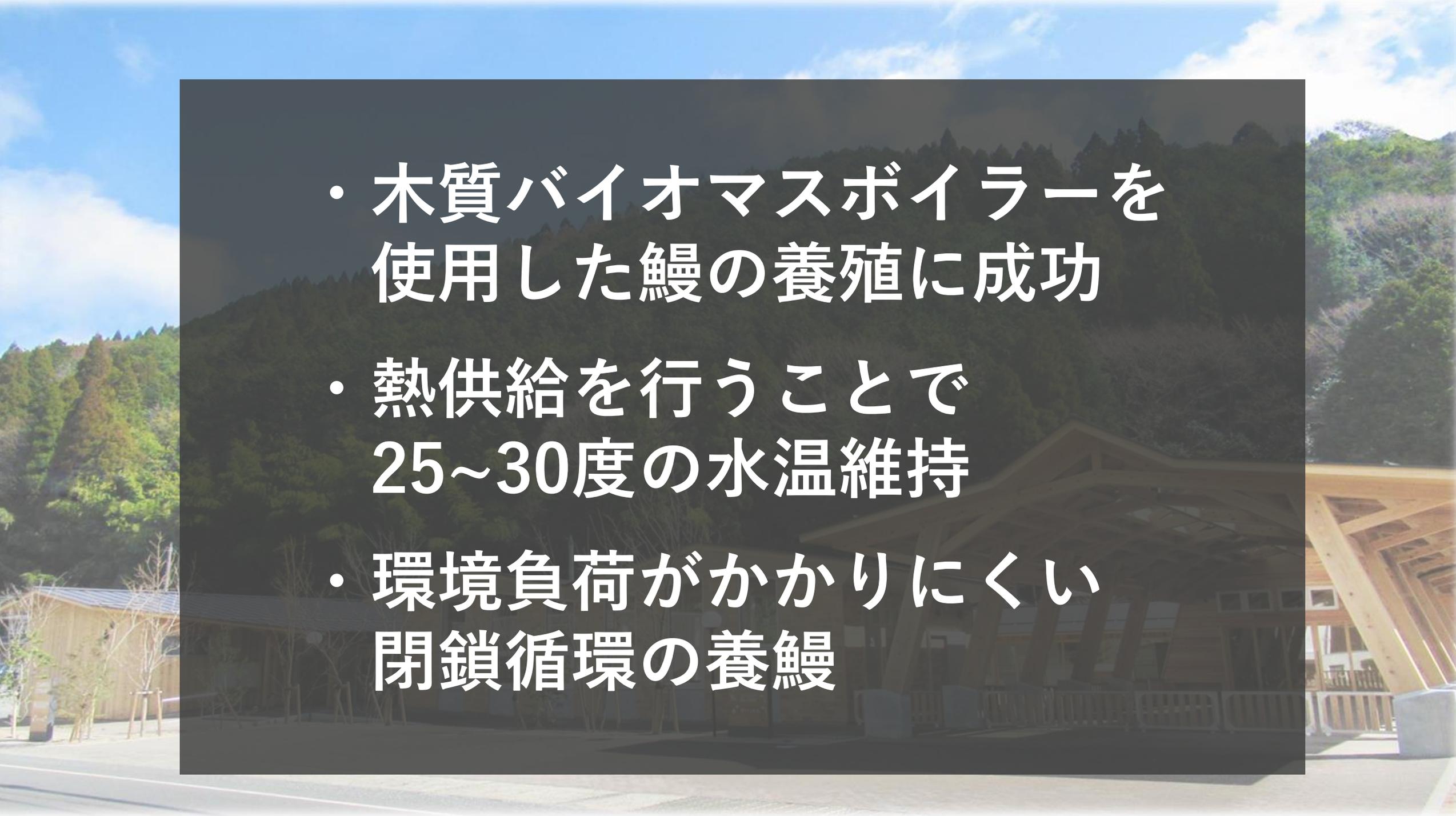


一定の温度管理が必要

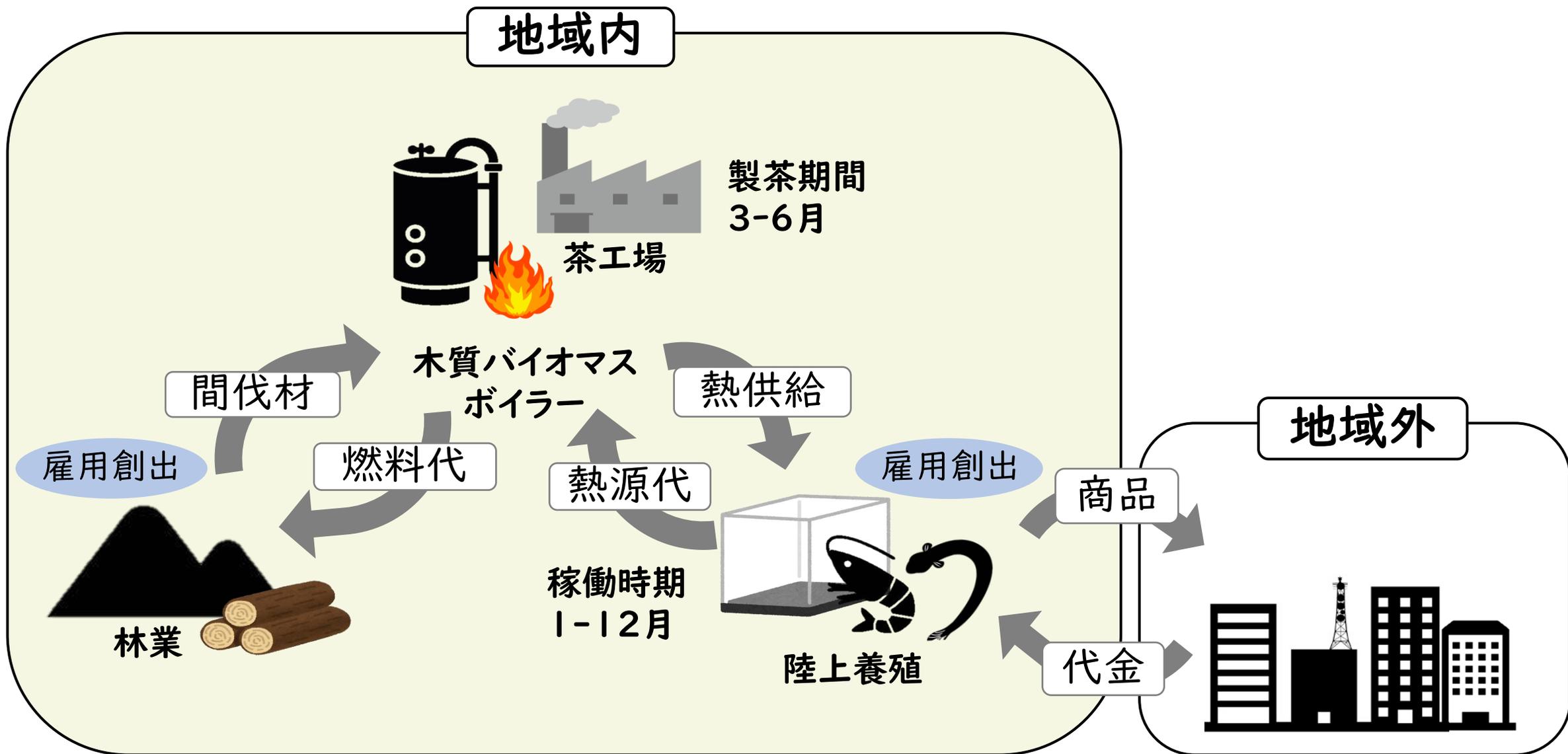
陸上養殖

岡山県西栗倉村

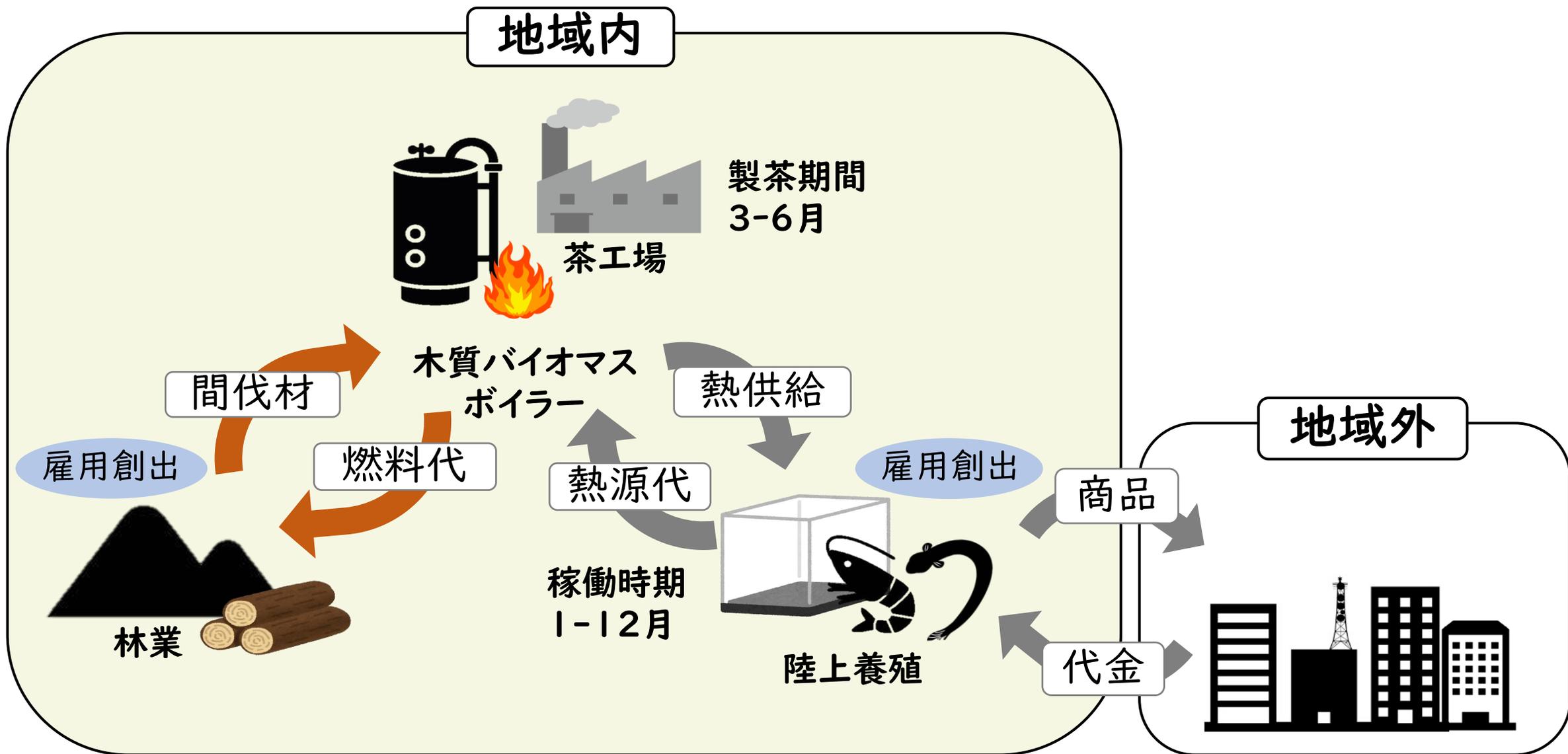


- 
- The background of the slide features a photograph of a modern wooden building with a prominent, layered roof structure, set against a backdrop of a dense forest and a clear blue sky with light clouds. The building's architecture is characterized by natural wood tones and geometric patterns. The text is overlaid on a dark, semi-transparent rectangular area in the center of the image.
- 木質バイオマスボイラーを使用した鰻の養殖に成功
 - 熱供給を行うことで25~30度の水温維持
 - 環境負荷がかかりにくい閉鎖循環の養鰻

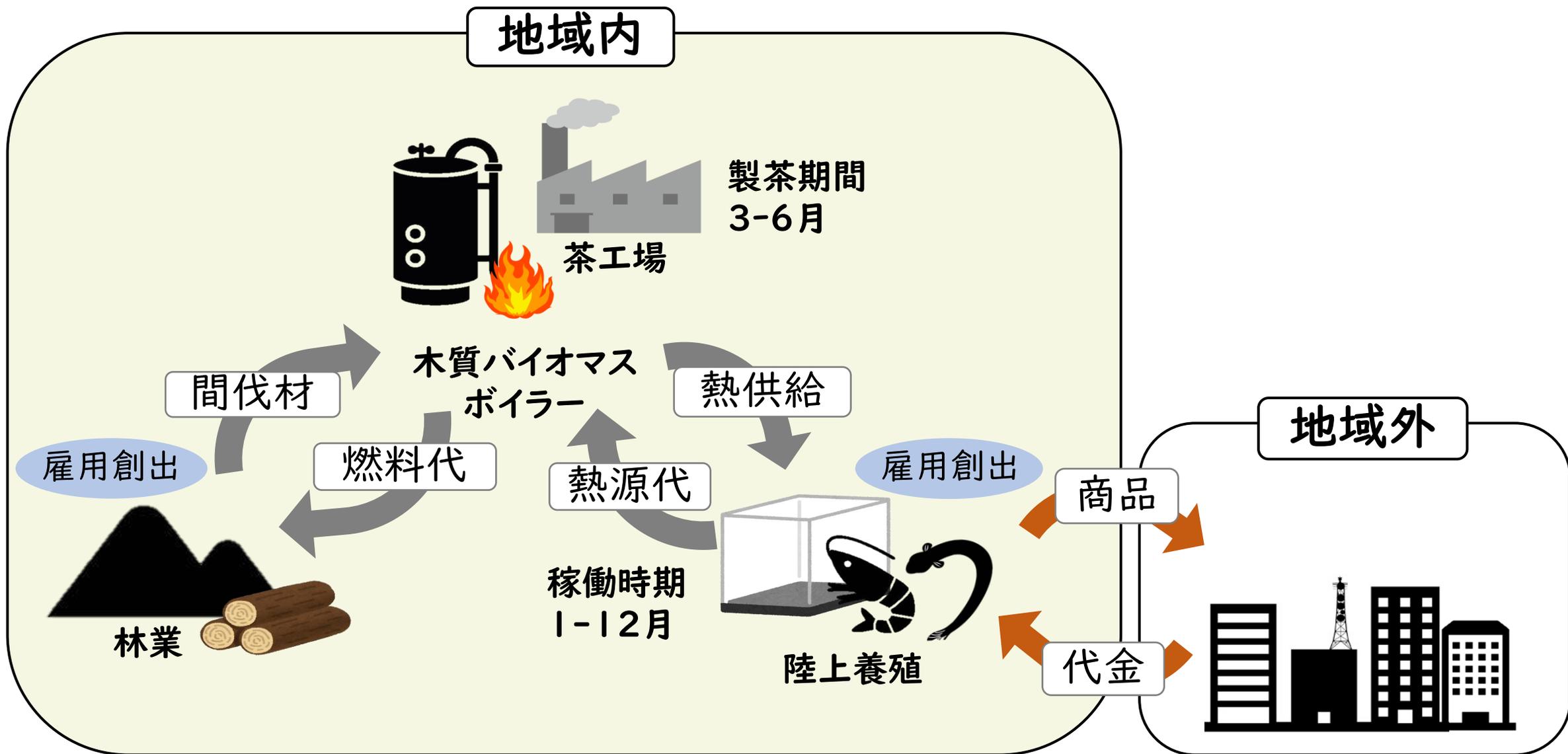
陸上養殖を用いた地域内循環モデル



陸上養殖を用いた地域内循環モデル



陸上養殖を用いた地域内循環モデル

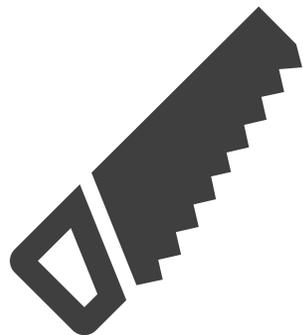
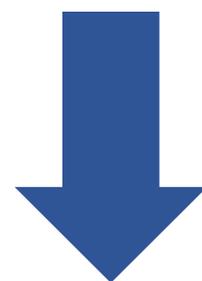




養鰻



700万円

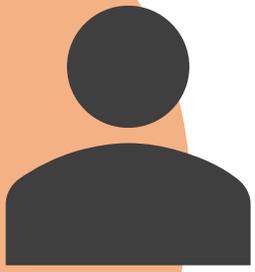


270万円

相当の雇用創出



養鰻

20人 
程度の雇用創出

担い手不足の解消



養鰻

經濟効果

2億8000万円

茶工場の設備利用率を高めることで

経済効果

採算性

環境的
付加価値

政所茶の存続に寄与する

おわりに
